

江井ヶ島ため池だより

江井ヶ島地区 ため池保全のための活動

Vol.9

発行：平成27年2月

草刈り用足場づくりを考えるワークショップを開催しました

開催日：平成27年1月31日（土）
場 所：東江井安心コミュニティプラザ
主 催：江井ヶ島ため池協議会、江井ヶ島土地改良区

江井ヶ島ため池（皿池、谷池）は、毎年、堤体の草刈りや野焼きが行われ、散歩などに利用できるとともに、良好な景観を維持し、多様な植物や野鳥の宝庫となっています。一方、斜面が急で、草刈り作業の危険なところがあります。

そこで草刈り用の足場を造ることになりましたが、今回のワークショップで、足場造りの方法を話し合いました。ワークショップには、総勢約30名が参加し、生き物の専門家（大嶋先生）による「ため池堤体の植物とその保全」についての講演も行われました。

この話し合いの結果（裏面参照）をもとに、3月1日には谷池斜面で3種の足場を試験的に造ります。そして3月15日には、本格的に施工する予定です。



ワークショップの様子

草刈り用足場づくり会(試験施工)のご案内

日 時：平成27年3月1日(日) 小雨決行
開場・受付：AM8:45～
足場造り会：AM9:00～AM12:00
場 所：谷池西側(プライム江井ヶ島南)
内 容：3種の足場を試験的に造り、比較する
主 催：江井ヶ島ため池協議会
江井ヶ島土地改良区

集合場所
会場



お問い合わせ	江井ヶ島ため池協議会	尾仲	TEL 078-946-4243
	江井ヶ島土地改良区	崎野	TEL 078-946-4243
	兵庫県加古川流域土地改良事務所	合田	TEL 0794-70-7003 (ダイヤルイン)
	明石市産業振興部農水産課	増井	TEL 078-918-5017

裏面もごらんください

ワークショップの成果

ワークショップでは、次の3種類の足場造り方法について、方法別に3班に分かれて話し合いました。

ワークショップでの意見

区分	1班 専用機械を使用する工法	2班 板材・木杭を使用する人力施工	3班 樹脂製品を使用する人力施工
イメージ写真			
足場の間隔 (縦方向)	<ul style="list-style-type: none"> 上から斜長1.5mの位置、その後斜長3m間隔がよい 	<ul style="list-style-type: none"> 野焼きの時に段が多いと手間がかかる 段が多いと足場の管理もたいへん 斜長3mで最低2段、試験施工は2段とする 	<ul style="list-style-type: none"> 3mと2.5mの2ケースを試す
足場の広さ、断面	<ul style="list-style-type: none"> 足場の広さは30cmがよい。 1スパンは土が崩れないよう、足場面にセメントを混ぜる。 植生マットを敷くことも考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 段が広いと堤体に悪いのでは？ 50cmだと広い 自走式草刈り機1回で刈れる幅の40cmを基本とする 板の水抜きは必要ないか？ 板が高いと草刈り機にあたる 滑り落ちない工夫が必要 	<ul style="list-style-type: none"> プレートの12cmだけでは不安 プレートと掘削面を合わせて30cmとする
材料及び杭などのピッチ	<ul style="list-style-type: none"> セメント(試験的。目印にもなる) 	<ul style="list-style-type: none"> 板厚24mm(12mmでは薄い)。板幅18cm(12cmは低い)。長さ4m 杭の太さ42mm角。長さ60cm(長すぎるかもしれない)。 杭間隔は90cmと45cmの2ケースを試す 	<ul style="list-style-type: none"> 既製品の仕様どおり
施工工具	<ul style="list-style-type: none"> 専用機械 ランマー スコップ 安全ロープ 	<ul style="list-style-type: none"> 土の切り取り、埋め土はスコップ等人力 締め固めはランマとかけや 杭の打ち込みはハンマーとかけや 	<ul style="list-style-type: none"> 杭の打ち込みは、打ちはじめに短めのハンマーを使い、入ったらかけやを使う。 切り土にスコップ、ジョレンを使う
手順	<ul style="list-style-type: none"> 機械が転がらないようにロープを付け、一人がロープを支える 排土を片側によせる ランマーかスコップで土を固める 土留め板を付けるほうがよい 	<ul style="list-style-type: none"> 杭が割れるので、板をあてるほうがよい 複数の場所で同時に始めるとずれるので、順に施工するべきだ ヘルメットを着用するほうがよい 	<ul style="list-style-type: none"> レベルだし、ひもで水平目印(前日) 上の段から施工していく 締め固めは不要 掘削は10分/m程度と予想
必要人数 (1班当たり作業人員)	<ul style="list-style-type: none"> 安全補助、機械操作、土の締め固め、ロープ持ち各1名、計4名 	<ul style="list-style-type: none"> 最低3人必要 	<ul style="list-style-type: none"> 3~4人必要
よいところ	<ul style="list-style-type: none"> 手作業よりも楽 スピードが速い 	<ul style="list-style-type: none"> 試験施工で確認 	<ul style="list-style-type: none"> 盛り土不要
よくないところ	<ul style="list-style-type: none"> 浸食防止に土留め板が必要 土とセメントの混合物が下の田へ流れないか危惧される 	<ul style="list-style-type: none"> 試験施工で確認 	<ul style="list-style-type: none"> 燃える
足場造り会で確認したいところ その他	<ul style="list-style-type: none"> 土留め板の厚み(2班と連携) 足場の下側を刈る時にかがむと転がる不安がある 水はけが悪くなるのではないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 必要人員 施工時間 	<ul style="list-style-type: none"> 体重をかけたら崩れないか きっちり固定できるか(がたつかないか) うねり(不陸)がでないか 製品下の草はどうなるか？

生き物の専門家の講演、コメント要旨

大嶋先生：ため池の堤体には希少な草原生植物が生き残っていることがわかってきた。ため池堤体で良好な草地環境の保全を図るためには、草刈りが重要な要素。生育する植物を見れば、漏水の有無もわかる。草刈りなどの管理が疎かにされているため池の堤体には、外来植物の侵入が目立つ。外来種は刈り込みに弱い。

松本先生：植生マットという意見もあるが、外来種が増える恐れがある。足場のための掘削で土がむき出しになり最初は醜いが、土の中には在来種の種があるので復活する。施工後にはフォロー調査をしていきたい。